

この頃思う事・2

～男女共同参画的な人生の証を～

岩手県男女共同参画サポーター(釜石市)
岩切 久仁

働く世代の社会の労働条件の話は、今後の若い皆様に託すとして、一人の人間として気づいた、生活の中のささやかな男女共同参画への提案を1つしたいと思います。

私達の周りは高齢化社会となり、大事な先輩や友人がこの世からお別れをする場面も多くなりました。独身で終わる方は別として、新聞に載る死亡広告を見て気になる事があります。それは、妻が健在でも息子さんが喪主になっているケースがある事です。

長いこと夫婦であった最後の仕事です、妻の名前があってほしい…。反対のケースもしかりです。お寺さんでの喪主挨拶を、息子さんや娘さんにしてもらってもいい。せめてハガキの挨拶状の喪主は夫婦お互いの名前であってほしいと願います。

また、夫婦で建てたお墓の建立の名前に夫の名前だけが銘記されている…。夫婦で建てたのだから、建立の名前は二人の名前が銘記されればいいなと思います。それが、夫婦で家庭を築き「夫婦共同」でした仕事の証だと思うからです。

日々の生活の中には、男性中心だった時代の気になる事が今も細かいところに多々あります。男性も女性も人格を尊重されればこそ、生きがいや幸せに繋がると思います。

ですから細かいところから、少しずつ気づきがありますように、また呟く機会がありましたらお話いたします。

それではまた。



平成29年7月24日作成

